【取組内容】 クラウドを活用した授業課題や課題提出、アンケート集約等生徒の実践的な情報活用能力の育成

[自由進度学習による活用]

学習進度を自分で決め、1時間完結で、目標と振り返りを行う。課題の提出はクラウド上(office365)で行う。毎時間の振り返りを行いクラウド上に保存することで、次の時間の目標を立

てることが可能になり、 次時への導入がスム = -スになる。

◇Office365を活用 →
した提出課題の様子



[提出課題による個別添削]

振り返りを大切にする課題の提出。個別添削。 内容の振り返りと個別の指導がそれぞれの個々

の学習意

欲を高め、

目標設定が可能になる。

(毎)以下のでは、前回作り上げることができなかった型料ごとの平均点、水点疾者素が必要がに再規制とました。 を図り返回では、前回からボード返帰時に完生からいただいたアドレイスをとしば、INNRG 中を使って条件を検定し、 受別に、前回のレボード返帰時に完生からいただいたアドレイスをとしば、INNRG 中を使って条件を検定し、 受別に支持っているというできない。上手へいやけ、最終的に主体、バーモが向け、ました。経典的になっていた器を必要、 デヤなことができたので集かったです。受別構文ながは、立て学んだ COUNTのサウタと INNRG のを使って、 大成体等者がら起かる解析を受けてに接続していました。何回か INNRG がに入れる項目を開業とてしまいました。 SQL 文件故に取り組合るとう。 領援りたいと思います。

がなり難しい様女ができていますね。CASEを使うと特定ができますので、(80点以上をA 60点以上をB・・・・とか、ちなみに様文のではもっとすっきりした方法で出来ます。考 えてみるのもいいですね。9月25日

↑ 個別添削による生徒の取り組みの変容

[積極的なアウトプットで理解を促進]

「説明が他人にできて教えられること」を条件に 自分なりにわかりやすくまとめさせる。 既習事項を いくつかきちんと組み立てて考える論理的思考力 と、正しく表現する力、そしてわかりやすく説明す る力が必要になり

、本質的な理解につな げる。自分の中にある パーツの組み立てを頑 張る生徒が確実に増え た。



[自身のプレゼンを他者から評価]

自身のプレゼンに対する評価アンケートを Formsを活用して自身で作成し、コメントを収 集する。

次回への改善点として役立てることで、自身の ブラッシュアップにつなげていく。得られた回答は生 成AIを活用して集約も行う。

また、他者に対する評価を行うことで評価者と しての意識も向上するとともに自身との比較に役立てている。

[授業後の活用で思考時間の確保と欠席者の対応]

授業における板書をTeamsにアップ。もう一度 思考をしたい人やじっくり考え直したい人に好評。 また欠席者にとっても授業の遅れが気にならない。 授業配信も実施。会議により認定を受けた生



徒に対し、全授業配信 も行う。イベントや行事 についても極力欠席者 への配信を行う。

[生徒一人一人の看取りを評価へ]

Formsで意見集約発言する生徒だけでなくすべての生徒から考えや思考の様子をとらえることができる。発言するより記述の方が多くの考えをリアルタイムに知ることができる。意見を参考に授業改善にも役立つ。またグループ活動においてはWordやPowerPointなどで協働編集作業を行い、その記録を評価にしていく。生徒一人一人の看取りにつながる。

社会に出て活用できるために、何をどの場面でどのように使ったらいいかを考える力を身に付けさせる。



情報活用を自分で選択できる選択肢を増やす取り組みを高校で実践